

## I. 2015 年度シーズンを振り返って

### 主将反省

前主将 菊池直人

2015 年度のシーズンを振り返ってみますと、千葉対校・北関東五大のアベック優勝、25 大学対校戦の女子総合 3 位などをはじめ、チームの力は確実に上がってきていると感じています。しかし同時に、部員全員が本来持っている力を引き出すことができれば、このチームはもっと上を目指すことができるという実感もあります。部員の力を引き出し、強いチームを作ることがチーム作りの目的ですが、いざチームを動かす身になってみると目の前のことだけで精一杯になってしまい、いつの間にか部活を運営する本当の目的を忘れてしまっていたように思えます。これは現主将の小野に引き継いでから気づいたことなのですが、競技者に最も必要なのは負けず嫌いであることだと思います。つまり、チーム作りにおいて大切なことは「勝ちたい・負けたくない」という意識を強く持った組織を作り上げることです。同じ部活、同じブロックのメンバーにはもちろん、他大学のライバルにも負けたくないという意識を持った負けず嫌いなチーム作りを、現主将である小野を中心に実現して行ってほしいと願います。そのために、1 年間主将という立場に立って学んだ様々なことを、これからの部の活動に少しでも役立てていきたいです。

### 主務反省

前主務 鈴木杏奈

昨年の国公立 25 大学で前主務の加藤から仕事を引き継ぎ、長谷川と共に 1 年間主務をやらせていただきました。スタッフ全体としては報告・連絡・相談が甘く、チームに迷惑をかけてしまうことが多かったように感じます。今年の千葉対校は茨城大学が主催ということで、大会前から抜けが無いように準備を進めてきました。当日は大きな問題はなく、無事に運営を終えることができました。千葉対校が第 50 回大会という記念大会であったため、OB・OG の方、千葉大学との記念写真撮影を取り入れ、心に残るような大会にすることができたと思います。チームに関しましては、チーム全体を上手くまとめることができず、まず何をすればいいのかという優先順位を見誤ってしまうことも多々ありました。

自分の反省を現主務の後藤にしっかりと伝えていきたいと思います。自分がこの 1 年間主務として学んだことを無駄にはせず、競技や日常生活に生かしていきたいと思います。

昨年の 25 大学対校戦後から主務として活動してきました。長かったようであり、短くも感じる 1 年間でした。1 年を振り返ると、失敗したことや、後悔することばかりが思い起こされます。主務として、スタッフとして、寝ても覚めても、チームのことが頭から離れないとても濃い時間を過ごしたように思います。

主務として部の外側と関わる機会が多かったように思います。OB・OG 会である茨苑 AC や茨城陸上協会、関東学生連盟や国公立 25 大学連盟、合宿などをともに行った大学、それから学内では学生生活課や学友会など挙げていけばきりがないほど多くの関わりがあります。陸上部というものが様々な場所に属し、多くの方々のおかげで日々の練習や競技会への参加、開催を行うことが出来ていると感じました。競技だけでは少し見えにくいこと、主務という役割だったからこそ感じられたことだと思います。

主務はある程度、仕事は決まっています。それらは大きなミスはなく仕事は出来ていたと思います。逆にそれ以上のことはあまり出来なかったようにも思います。主務が二人だった事も考えるともう少し工夫した取り組みもできたのではないかと思います。

この一年間様々な事を経験し、考え方、見え方が少し広くなったように思います。これを競技や普段の生活に生かしていければと思います。

## **短距離ブロックの反省**

**前短距離ブロック長 宮本秀斗**

今年度短距離ブロックは新たに 1 年次 10 名、院 1 年次 2 名を加え、総勢 29 名で活動してきました。

まず競技結果として PB を出すことができた人が少なかったというのが 1 つあります。メインの種目で PB を出せたのは 29 名中 10 人、さらにその中で 1 年次が 3 名と昨年の冬季から練習を続けてきた上級生のなかでは 7 人しか PB を出すことができませんでした。しかし、各対校戦で決勝に残る人は昨年より大幅に増えました。これについては 1 年次の活躍が目立ったことも含め、短距離全体としての底上げがはかることができたことが要因と考えられます。

また、昨年からずっと目標にできていた男子 4 継の日本インカレ出場は特に結果としては光りました。これによってチームに勢いをつけただけでなく、そういった大きな目標を達成するためにはどのような取り組みをしていかなければいけないのかという最も重要な点の経験を来季も残るメンバーもできました。これは大きな財産になると思います。

それ以外の反省としては「怪我人」を多く出してしまったことです。昨年度の部誌にも同じことを書きました。私としてはブロック員の状態をこまめに聞いて把握するということを徹底して取り組んできましたが足りませんでした。課題を今後も解消に向けて考えていきたいです。

現在、ブロック長を小林柊次郎に引継ぎ短距離ブロックは活動していますが、受け身の姿勢にならず積極的にサポートしていく姿勢で取り組んでいきたいと思います。

## 中長距離ブロックの反省

前中長距離ブロック長 山本智晴

今年度中長距離ブロックは1年次2人・2年次1人を迎え、19名で活動してきました。

今シーズン全体を通してみると、ブロック全体として圧倒的に力不足だと痛感しています。中には関東インカレに出場する者や対校戦で大きく活躍する者もいますが、全体的に見れば活躍しているのはほんの一握りで、対校戦で通用しない者がほとんどといった状況です。ではなぜ結果を残すことが出来なかったのか？それは、大きく言えば試合に向かう意思が弱かったからだと考えます。具体的な要因として、発揮能力の無さと、昨年までと同様に故障者が多かったことが挙げられます。大事な試合前に故障を起してしまうことや、ブロック全体として故障が起きてしまう前に認知・防止できなかったことなど、試合に向かう意思が強ければ故障をなくしていけたであろうことなので、今後はしっかりとこの部分を改善していきたいと思います。

また、今年はこれまで以上に他大や地域の人々との交流や繋がりが生まれ、深くなった年だったと思います。合同練習や合同合宿の誘いが昨年以上に増加し、そこで普段の練習では味わえない質の高い練習や緊張感、競争意欲など様々な面で自分たちにとってプラスになることを得ることができました。こういった繋がりを自分たちの代で終わらせるのではなく、積極的に両者の後輩に繋がりを繰り返し引き継いでいき、そうすることで自分たちが卒業して何年経とうと、この繋がりは消えずより一層深くなって残っていき、個人の成長からブロックの成長、さらに部全体の成長に繋がり、ひいては国公立大学全体の成長に繋がっていくと思います。後輩たちには繋がりを作り深めていき、自分たちの糧としていけるよう願います。

## 跳躍ブロックの反省

前跳躍ブロック長 宮本蘭子

今年度跳躍ブロックは新たに1年次5名を迎え、総勢12人で活動をしてきました。今シーズンは、全員が関東インカレの標準突破を目指し、3月下旬の記録会でシーズンインをしましたが、新たな関東インカレの出場者を出すことができませんでした。競技結果としては、関東インカレで4年次山内、沖崎、3年次堀尾の出場者全員が入賞をし、また、フィールドでは関東甲信越で男女総合2位、北関東五大学対校では男女総合優勝と嬉しい結果も多かったです。しかし、一方では活躍するのはいつも同じ選手であり、記録の伸びにも個人差があるなどの反省点もあげられます。

また、ブロック長である私自身も含め、今シーズンは怪我で練習ができなかったり、対校戦に出場することができなかったりする選手が多かったです。怪我も実力のうちという言葉もありますが、日ごろの練習後のケアや日常生活での意識を変えることで怪我のリスクを下げることはできると思います。また、怪我をしたときに限らず、ブロック員同士での「報告」・「連絡」・「相談」を怠ってしまった面もありました。私が、練習に参加していない日数が多かった分、ブロック内の状況把握にはより一層気を配るべきだったと反省をしています。得点源かつチームの中心的存在であった4年次が抜けてしまった中で、来シーズンはさらなるレベルアップが求められます。ブロック長は大塚に引継ぎました。大塚はとても頼もしい存在です。来シーズンの跳躍ブロックがよりよいブロックとなるように、1年間支えてもらった分以上に、これからの運営のサポート・日々の練習に励んでいきたいと思っています。

## 投擲ブロックの反省

前投擲ブロック長 友常結衣

今年度の投擲ブロックは神山、川嶋、栗原を加え、総勢 10 名で活動してきました。ブロック員の人数が 2 桁になったのは私が知っている限りでは初めてであり、賑やかなブロックとなりました。また、競技的な面でも今年度盛り上げてくれたのは 1 年次だったように感じます。

今シーズンを振り返り、最初にブロックを盛り上げてくれたのは前ブロック長である荒井だったように思います。怪我で苦しみながらも関東インカレの標準を突破するという 4 年次の意地を見せてくれました。そして 2 年次古田の茨大記録更新、神山の日本ジュニア標準突破・7 位入賞、川嶋、栗原の関東インカレ標準突破など、1、2 年次の活躍に助けられブロック全体としても競技力が向上したように思います。しかしその一方で怪我に苦しんだり思うように調子が上がらなかつたりして記録を出せなかった者や、シーズンの前半は良かったものの後半で伸びずに大事な試合で結果を出すことができなかつた者など、反省点も多くあったように感じます。

1 年間、ブロック長をやっていく中で色々なことを考えさせられ多くのことを学びました。なかなか上手いかず苦しいときもありましたが、この経験や得たことを次の世代に伝えていき、今後新しくなる投擲ブロックに活かすことができたらと思っています。

## マネージャーブロックの反省

マネージャーブロック長 石堀美柚

今年度のマネージャーブロックは、新たに 2 名の 1 年次を加え、3 名で活動してきました。人数が増えたことで、昨年よりもサポートにも余裕を持てるかと思っておりましたが、多くの場面で、マネージャー自身もたついてしまうことがあったように思います。普段の練習であるべきものがそろっていなかったり、試合前にするべき準備を怠ってしまったり、至らない点が多くありました。先を見通した行動を意識できなかったため、最低限のサポートにすら余裕を持てなかつたのだと思います。また、ひとつひとつのサポートの必要性や意義を見直すことをせずに、やるべきことを明確化できなかったことも反省としてあげられます。マネージャーとして部に参加する責任を、ブロック員全員が常に持って行動できなかったため、締まりのない活動となってしまいました。

より良い環境を整えるために、マネージャーの視点から、様々なことを考えることが出来たのはよかったです。しかし、その際、選手がどう感じているのかを積極的に聞いたり、働きかけたりする意識が足りなかつたように思います。普段の練習でも、対校戦などの試合でもそうですが、選手の声が多く取り入れた、プラスのサポートを考えることが出来ませんでした。選手との連携やコミュニケーションは、練習においても、試合においても最も大切なものです。どのような状況でも、まずは選手の声に耳を傾け、その上でどういったサポートをしていくか考える必要があると感じています。

来年度は、今年度の反省を踏まえ、お互いに改善点を明確にしながらか活動していきたいと思っています。今後ともよろしくお願ひいたします。

## 日立ブロックの反省

前日立ブロック長 堀尾佳希

今年度は 11 人での活動でした。自己ベストを出したものが 5 人、出せなかつたものが 6 人とおよそ半分半分という結果になりました。その要因としては自分の課題を明確にしてその課題の克服に向けてひたむきに出来ていたかどうか大きいと思います。しかし、そう簡単には言ってもそれをするためには正しい知識が必要になってきます。陸上に関してブロック員それぞれが勉強をし、その知識をみんなで共有することが大切になってくると思います。

来年度からは偉大な先輩方 4 人が抜け 1 年次が 4 人入ってきます。また新しい日立ブロックが始まりますが、これまでよりもブロック員全員が正しい知識をたくさん身につけて効率のいい練習を積み重ねていければと思います。そして、これまで通り飲み会などのイベントは継続して行い仲を深めていきたいと思っています。

## Ⅱ. 2015 年度活動報告

### 2015 年度活動報告

日程	大会名	場所
5/14～17	第 94 回関東学生陸上競技対校選手権大会(関東インカレ)	日産スタジアム(横浜)
6/12～14	2015 日本学生陸上競技個人選手権大会	Shonan BMW スタジアム平塚(平塚)
7/3～5	第 70 回茨城県陸上競技選手権大会	笠松運動公園陸上競技場(那珂)
8/9	第 50 回千葉大学茨城大学対校陸上競技定期戦	笠松運動公園陸上競技場(那珂)
8/18～19	第 64 回関東甲信越大学体育大会	筑波大学(つくば)
8/24～26	第 88 回関東陸上競技選手権大会	笠松運動公園陸上競技場(那珂)
9/11～13	第 84 回日本学生陸上競技対校選手権大会(日本インカレ)	長居陸上競技場(大阪)
9/20～21	第 47 回関東理工系学生対校陸上競技大会	さいたま市駒場運動公園競技場(さいたま) 鴻巣市立陸上競技場(鴻巣)
9/21～23	第 26 回関東学生新人陸上競技選手権大会	上尾市立陸上競技場(上尾)
9/23	第 66 回北関東五大学対校陸上競技大会	栃木県総合運動公園(宇都宮)
10/17	第 92 回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会	昭和記念公園(立川)
10/16～18	第 31 回日本ジュニア陸上競技選手権大会	パロマ瑞穂スタジアム(瑞穂)
10/2～10/6	第 70 回国民体育大会	紀三井寺公園陸上競技場(和歌山)
10/10～10/12	第 30 回国公立 25 大学対校陸上競技大会	とうほう・みんなのスタジアム(福島)
12/6	第 70 回三浜駅伝競走大会	ひたちなか(那珂湊)
12/20	第 16 回荒川河川敷大学対校駅伝競走大会	荒川河川敷(北区)
12/26～12/28	宇都宮・千葉・群馬・高崎経済大学合同合宿	阿字ヶ浦海岸
1/16	第 13 回国公立 25 大学対校駅伝大会	熊谷スポーツ文化公園(熊谷)
1/31	第 64 回勝田全国マラソン	ひたちなか
3/21	第 25 回楮川駅伝競走大会	楮川ダム(水戸)
3/26～3/27	関東学生春季オープン陸上競技会	八王子市上柚木公園陸上競技場(八王子)



関東甲信越大学体育大会

i) 大会後記

第94回関東学生陸上競技対校選手権大会

(2015/5/14~17 日産スタジアム：横浜)

今年の関東インカレは5/14~5/17まで、横浜の日産スタジアムで行われました。4日間連続の開催ということで、終了後は選手、応援共にかかり疲労した様子でした。

今年のリレーも含め男子12人女子6人の計18人が出場しました。特に修士2年次伊藤(太)が男子3部100mで優勝(2連覇)、4年次の沖崎が男子走幅跳で6位入賞、4年次の山内が女子棒高跳で7位入賞、といったように、最高学年の活躍が印象に残った試合でした。また、1年生ながら神山も女子砲丸投、円盤投の2種目に出場し存在感を見せました。

しかし、対校戦として他の大学と闘うための力は十分に付いておらず、また出場者も昨年度から増やすことが出来ませんでした。2016年度の関東インカレでは、一人でも多くこの舞台に立てるよう、標準突破を目指して部員同士切磋琢磨していきます。(文責:小野隼太)

関東インカレ結果

種目	名前	記録	備考
男子100m予選	沖崎 一也	10.95(-0.2)	
	猿田 康陽	11.08(+0.7)	
男子200m予選	伊藤林大郎	22.02(+1.9)	
男子200m準決勝	伊藤林大郎	22.04(+0.3)	
男子400m予選	宮本 秀斗	48.48	
男子400m準決勝	宮本 秀斗	49.14	
男子110mH予選	村山 靖真	15.53	
男子3000mSC予選	小野 隼太	9.17.42	
男子4×100mR予選	伊藤(林)・沖崎・猿田・宮本	41.36	
男子4×400mR予選	宮本・伊藤(林)・中浦・猿田	3.19.42	
男子棒高跳決勝	堀尾 佳希	4m20	6位
男子走幅跳決勝	沖崎 一也	7m03(-0.9)	6位
男子やり投決勝	近藤 颯二	53m58	
	荒井 啓輔	49m89	
男子ハンマー投決勝	富岡 泰資	40m23	
男子3部100m決勝	伊藤 太一	10.68	優勝
女子4×100mR予選	鈴木・加藤・後藤・大塚	49.17	
女子4×400mR予選	鈴木・加藤・蛇名・後藤	4.05.66	
女子棒高跳決勝	山内 裕香	3m50	7位
女子砲丸投決勝	神山 結衣	10m61	
女子円盤投決勝	神山 結衣	37m73	

## 第 50 回千葉大学茨城大学陸上競技大会

(2015/8/9 笠松運動公園陸上競技場：那珂)

本大会は茨城大学主催で行われました。男女総合優勝を目指して挑むなか、優勝者が多いことが目立ちました。得点から見ても、男子が同点、女子が一点差という白熱した大会となりました。男子に至っては同点のため種目優勝者数で勝敗が決まりました。結果、男女総合優勝という目標を達成したと同時に、得点一点の大切さに気づかされた大会であったと思います。

また、運営に携わっていただいた茨城陸協の方々、OB・OG の先輩方の協力があったからこそ、最高の環境で円滑な競技進行を行うことができました。ありがとうございました。

来年は千葉にて大会が開催されます。来年も男女で総合優勝を目標に、チーム一丸となって頑張っていきます。(文責：沖崎一也)

### 千葉対校結果(優勝者)

種目	記録	氏名
男子 100m	10.61(+2.8)	伊藤 太一
男子 200m	21.47(+1.9)	伊藤 太一
男子 5000m	15.51.92	小野 隼太
男子 3000mSC	9.37.83	小野 隼太
男子 4×100mR	41.10	伊藤(林)・伊藤(太)・柰家・沖崎
男子 棒高跳	4m40	木内 智也
男子 走幅跳	7m03(+2.2)	沖崎 一也
男子 三段跳	14m64(+0.6)	沖崎 一也
男子 砲丸投	10m56	中浦 凌馬
男子 円盤投	32m36	栗原 寿幸
男子 やり投	55m67	川島 康佑
女子 100m	12.53(+2.5)	加藤 祐実
女子 200m	25.75(+1.4)	加藤 祐実
女子 1500m	4.49.10	高野 美幸
女子 100mH	15.18(+0.4)	蛭名 史織
女子 4×100m	49.22	後藤・加藤・大塚・蛭名
女子 円盤投	37m69	神山 結衣
女子 やり投	45m31	古田 映布



円陣

### 最優秀選手



## 第 64 回関東甲信越大学体育大会

(2015/8/18～19 筑波大学：つくば)

第 64 回関東甲信越陸上競技大会は筑波大学陸上競技場で開催されました。2 日間通して天候に恵まれたことや、春先の記録会等でお世話になっている競技場での開催ということもあり、茨城大学にとってはとても良い環境の中で臨むことができました。結果としては、フィールド種目の活躍が目立ち、男女共に 2 位と、目標を上回る結果を収めることが出来ました。総合でも昨年よりワンランク上の順位を取ることができました。また、女子 5000mでは大会新記録、女子円盤投で日本ジュニアの標準を突破するなどの 1 年生の活躍も見られました。この大会を通して、茨城大学陸上部の存在感を示すことが出来たのではないかと思います。しかし同時に、他大学のレベルも上がっていることを痛感させられた大会となりました。この結果に甘んじることなく個人の更なるレベルアップを通してチームとしてさらに成長していきたいと思います。(文責:後藤晴菜)

### 関甲信結果(入賞者)

種目	記録	氏名	順位
男子 100m	11.29(-0.7)	柰家 弘樹	7 位
男子 110mH	16.26(-1.0)	村山 靖真	8 位
男子 3000mSC	9.26.42	小野 隼太	2 位
男子 4×100mR	42.26	堀尾・斎藤・柰家・沖崎	5 位
男子 4×400mR	3.23.44	斎藤・川原・斎藤・伊藤(俊)	8 位
男子 棒高跳	4m50	木内 智也	3 位
	4m30	堀尾 佳希	7 位
走幅跳	6m94(+1.1)	沖崎 一也	4 位
三段跳	14m56	沖崎 一也	7 位
男子 円盤投	35m19	栗原 寿幸	7 位
男子 やり投	58m38	川嶋 康佑	2 位
	54m90	荒井 啓輔	6 位
女子 100m	12.60(-2.1)	加藤 佑実	3 位
女子 200m	25.57(-1.0)	加藤 佑実	3 位
女子 1500m	4.46.98	金子 美鈴	3 位
	4.54.98	高野 美幸	6 位
	4.55.21	廣瀬 未来	7 位
女子 5000m	17.17.65	金子 美鈴	1 位
	17.58.76	高野 美幸	5 位
	18.25.95	廣瀬 未来	6 位
女子 400mH	1.06.90	小林 莉菜	7 位
女子 4×100mR	49.75	後藤・加藤・大塚・蛭名	5 位
女子 4×400mR	3.58.82	後藤・蛭名・加藤・小林	5 位
女子 走高跳	1m55	永瀬麻梨凜	5 位
	1m45	宮本 蘭子	8 位
女子 走幅跳	5m47(+1.5)	後藤 晴菜	5 位
女子 やり投	45m24	古田 映布	3 位
	36m84	大塚 美穂	7 位
女子 円盤投	41m10	神山 結衣	3 位
	32m05	古田 映布	7 位
女子 砲丸投	10m99	神山 結衣	3 位



## 天皇賜盃第 84 回日本学生陸上競技対校選手権大会

(2015/9/11～13 ヤンマースタジアム長居：大阪)

今年度茨城大学からは、男子 4×100mR(大学院 2 年次・伊藤太、4 年次・伊藤林、沖崎、猿田、3 年次・宮本秀、2 年次・柰家、1 年次・齋藤)、女子棒高跳(4 年次・山内)の 2 種目での出場となりました。昨年度は標準突破者が居らず、2 年振りの大舞台となりました。今年はリレー種目での出場の為、例年と比べると出場者が多くなりました。

男子 4×100mR は、8 月に行われた順天堂大学記録会で 40 秒 49 の茨城大学記録、また茨城県記録(単独)を樹立し、男子リレーチームとしては 19 年振りの出場となりました。沖崎-伊藤太-柰家-猿田のオーダーで出場し、予選敗退という結果で強豪校との力の差を思い知るものとなりました。予選通過こそ叶いませんでしたが、自分たちの持てる力を存分に発揮できたと思います。昨シーズンには、沖崎、伊藤林が、今シーズンは猿田、柰家が 10 秒台で走るなど、めまぐるしい成長を遂げました。特に、4 年次の飛躍が目立ち、個人としてもチームとしても成長を示すことができた大会となりました。

女子棒高跳の山内は、昨年の国公立 24 大学対校陸上競技大会で標準を突破し、2 年振りの出場となりました。1, 2 年次では満足のいく結果を残すことができなかったことや、最後の日本インカレと意気込んで臨んだ大会でしたが、残念ながら目標にこそ届きませんでしたが、日本インカレという大舞台で堂々と戦う姿は立派で、チームを盛り上げてくれました。

今年度の出場者は、最終学年の者が多く、特に上級生の活躍が目立ちました。今のチームには日本インカレの標準を突破しているものはいません。来シーズンの目標は 1 人でも多く日本インカレの出場者を輩出することだと感じています。チームとして、個人として明確な目標を定め、その目標に向かって精一杯トレーニングに取り組んでいきます。(文責:伊藤太一)



## 第 66 回北関東五大学対校陸上競技大会

(2015/9/23 栃木県総合運動公園：宇都宮)

今年度の北関東五大学対校陸上競技大会は昨年度の 24 大学対校の会場でもある栃木県総合運動公園において開催されました。例年とは異なる 9 月後半、25 大学対校の前の開催となりましたが対校の部において、男女ともにトラック、フィールド、総合全てで 1 位をとることができたことは素晴らしいと思います。しかし、その後の 25 大学対校の結果を見ると必ずしも今回の五大学対校のような順位とはなっていません。今回の男女総合優勝という結果に甘んじることなく、更にも上を目指し、日々の練習に取り組んで欲しいと思います。(文責:村山靖真)

五大学対校結果(優勝者)

種目	記録	氏名
男子 100m	10.68 (+1.6)	伊藤 太一
男子 110mH	15.77 (0.0)	村山 靖真
男子 400mH	52.89	川原 直之
男子 4×100mR	41.68	齋藤・伊藤(太)・柰家・沖崎
男子 棒高跳	4m40	木内 智也
男子 走幅跳	6m68 (0.0)	沖崎 一也
女子 1500m	4.48.26	高野 美幸
女子 3000m	10.16.62	金子 美鈴
女子棒高跳	3m20	山内 裕香
女子砲丸投	11m44	神山 結衣



### 第 30 回国公立 25 大学対校陸上競技大会

(2015/10/10~12 とうほう・みんなのスタジアム：福島)

今年度の第 30 回国公立 25 大学対校陸上競技大会は、10 月 10 日から 12 日までの 3 日間、福島大学を主催校として福島県のとうほう・みんなのスタジアムで行われました。

男子総合7位、女子総合 3 位 という結果でした。 棒高跳での山内の優勝、砲丸投での神山の優勝など、フィールドの活躍が多く見られました。さらに、男子リレー(伊藤林、伊藤太、柰家、沖崎)の優勝、堀尾の十種競技、大塚の七種競技での関東インカレ B 標準突破などの活躍も見られました。しかし、その一方であと一步のところまで決勝を逃してしまったという部員もいるので、全体としてもう一段階レベルアップが必要であると思います。

来年は、さらに上を目指して練習に打ち込んでいきたいと思います。(文責:高野美幸)

25 大学対校結果(入賞者)

種目	記録	氏名	順位
男子 100m	10.73(+2.3)	伊藤 太一	2 位
男子 200m	22.02(-0.3)	伊藤 太一	3 位
男子 400mH	55.19	川原 直之	7 位
男子 3000mSC	9.28.13	小野 隼太	4 位
男子 4×100mR	40.77	伊藤(林)・伊藤(太)・柰家・沖崎	1 位
男子 4×400mR	3.20.17	齋藤・宮本・柰家・川原	7 位
男子 棒高跳	4m40	木内 智也	6 位
	4m30	沖崎 一也	7 位
男子 走幅跳	7m00(-1.3)	沖崎 一也	8 位
男子 ハンマー投	35m01	富岡 泰資	6 位
女子 1500m	4.47.74	高野 美幸	7 位
女子 5000m	17.40.41	高野 美幸	1 位
女子 4×400mR	4.01.88	鈴木・加藤・塚田・小林	7 位
女子 棒高跳	3m40	山内 裕香	1 位
女子 砲丸投	11m34	神山 結衣	1 位
女子 円盤投	36m78	神山 結衣	2 位
	34m18	安田 萌	4 位
女子 やり投	41m28	古田 映布	5 位
	41m06	安田 萌	6 位
女子 七種競技	4427 点	大塚 美穂	3 位

## 第 70 回 三浜駅伝競走大会

(2015/12/6 ひたちなか)

12月6日、師走の寒空のなか珂湊港を起点として三浜駅伝競走大会が開催され、茨大からは去年に引き続き、男子2チーム、女子1チームが出場しました。

男子Aチームは総合2連覇を目標に掲げ大学対校駅伝の前哨戦として望んだ試合でしたが、去年出場していない2チームに敗れ、総合3位と悔しい結果に終わってしまいました。女子は一般の部で優勝し総合タイムも大幅に縮め、1人1人大きく成長した点が見られた試合となりました。

男女ともにこれまでと比較し力をつけてきているので、来年は更に他を寄せ付けぬ強さを示し茨大の存在感をアピールしていきたいと思います。(文責 山本智晴)

三浜駅伝男子結果(33.9km) 一般男子一部 1位 総合3位

	1区(6.1km)	2区(7.5km)	3区(3.3km)	4区(6.8km)	5区(4.5km)	6区(5.7km)
氏名	半澤 裕太	小野 隼太	菊池 直人	藤井 駿丞	小澤晃太郎	山本 智晴
記録	18.55	23.08	10.23	21.13	14.10	17.40
順位	(区間1位)	(区間1位)	(区間1位)	(区間1位)	(区間1位)	(区間1位)
総合	18.55	42.03	52.26	1.13.39	1.27.49	1.45.29

一般男子二部 25位

	1区(6.1km)	2区(7.5km)	3区(3.3km)	4区(6.8km)	5区(4.5km)	6区(5.7km)
氏名	長谷川大輔	樋口 卓哉	堀尾 佳希	柳町 直	木村 大介	奥山 康太
記録	19.58	24.55	16.35	22.20	17.17	20.36
順位	(区間5位)	(区間5位)	(区間80位)	(区間4位)	(区間33位)	(区間29位)
総合	19.58	44.53	1.01.28	1.23.48	1.41.05	2.01.41

三浜駅伝女子結果(20.2km) 一般女子 1位

	1区(6.2km)	2区(5.1km)	3区(3.7km)	4区(1.9km)	5区(3.1km)
氏名	高野 美幸	増田 梨沙	廣瀬 未来	荒井 芽衣	金子 美鈴
区間	21.58	18.40	13.14	6.39	9.56
順位	(区間1位)	(区間1位)	(区間2位)	(区間1位)	(区間1位)
総合	21.58	40.38	53.52	1.00.31	1.10.27

## 第 16 回荒川河川敷大学対校駅伝競走大会

(2015/12/20 荒川河川敷：北区)

今回で 16 回目を迎える荒川駅伝には、今年は男女ともに対校1チームと長谷川柳町樋口の 3 人が千葉大との合同チームがオープンで出場しました。男子は 1 区から、小野、菊池、半澤、山本、小澤、藤井のオーダーで 2 時間 15 分 11 秒で、総合 8 位でした。昨年に比べ、総合タイムを 1 分以上短縮したものの、順位に変動はなく、茨城大学も力をつけた分、他大学も更に力をつけてきていてレベルがどんどん上がってきているということがよく分かった試合になったと思います。目標としていたタイム、順位には僅かに及ばなかったですが、収穫や反省もあり次へと繋がる大会となりました。女子は 1 区から、高野、細谷、増田、廣瀬、荒井のオーダーで臨みました。1 区の高野が MVP の走りでチームに勢いをつけ、そこから先頭を譲ることなく、2 時間 9 分 30 秒というタイムで、昨年からタイムを約 1 分短縮し優勝することができました。しかし、今大会は大会記録を目標にしていたのですが、直前のオーダー変更等もありメンバー全員が万全の状態ではなかったといえます。優勝できたことはいい点でしたが、当初のベストメンバーで臨めなかったことや走ったメンバーが力を出し切れなかったと言った点が女子の課題でもあり、まだまだ足りないところでもあります。各メンバー良い点悪い点の両方の収穫があった大会となりました。千葉大との連合では樋口が 1 区、長谷川が 3 区、柳町が 6 区で出場し、2 時間 23 分 46 秒で 30 位でした。各々自分の力を試し、来年こそは A チームで走りたいという意欲が更に増した大会になりました。(文責：廣瀬未来)

荒川駅伝男子結果(42.195 km)総合順位 8 位

	1 区(10 km)	2 区(3 km)	3 区(8 km)	4 区(8 km)	5 区(5 km)	6 区(8.195 km)
氏名	小野 隼太	菊池 直人	半澤 裕太	山本 智晴	小澤晃太郎	藤井 駿丞
区間	31.00	9.21	25.23	26.03	16.30	26.54
順位	(区間 4 位)	(区間 13 位)	(区間 3 位)	(区間 10 位)	(区間 17 位)	(区間 9 位)
総合	31.00(4 位)	40.21(6 位)	1.05.44(6 位)	1.31.47(7 位)	1.48.17(9 位)	2.15.11(8 位)

荒川駅伝茨城千葉連合(42.195 km)総合順位 30 位

	1 区(10 km)	3 区(8 km)	6 区(8.195 km)
氏名	樋口 卓哉	長谷川大輔	柳町 直
区間	33.35	27.23	28.02
順位	(区間 32 位)	(区間 34 位)	(区間 22 位)
総合	33.35(32 位)	1.11.21(35 位)	2.23.46(30 位)

### 第 13 回国公立 25 大学対校駅伝大会

(2015/1/16 熊谷スポーツ文化公園：熊谷)

今年度の第 13 回国公立 25 大学対校駅伝大会は埼玉県熊谷スポーツ文化公園で開催されました。男子 1 チーム、女子 1 チームが対校の部に参加し、男子 3 名は千葉大学との連合チームでオープン部に参加しました。今大会は男子 5 位、女子 2 位を目標に大会に挑み、総合結果は男子 13 位、女子 3 位でした。男女とも上位大学との差はとても大きなもので、力不足を痛感させられた大会だったと思います。冬合宿を超えた年明け後のこの大会は、体調不良者やけが人が出てしまい万全の状態での臨むことが難しいのですが、それ以上の課題として、成長している他大学に自分たちがついていけないことが浮き彫りになりました。長い期間の地道な努力の積み重ねや、試合当日に自分の実力を最大限に発揮する能力等が、今後必要であると感じます。大会当日は晴天に恵まれたものの、例年通りに強い風が感じられるコンディションでした。選手は向かい風に押し返されながらの苦しい走りではありましたが、全部員の力強い応援が力となり背中を後押しして、襷を繋ぐことができました。上級生が多く残るこのチームは来年度が勝負の年となります。今年度の結果から多くの課題が見つかったので、それらを 1 つ 1 つ見直して、上位大学と競い合えるチームを目指していければと思います。(文責：藤井駿丞)

25 大学対校駅伝結果(38.58 km) 総合順位 13 位

	1 区(9.72 km)	2 区(3.14 km)	3 区(7.69 km)	4 区(5.17 km)	5 区(5.17 km)	6 区(7.69km)
氏名	小野 隼太	小澤晃太郎	半澤 裕太	山本 智晴	平塚 悠太	藤井 駿丞
区間	30.51	9.39	26.53	16.27	16.47	25.23
順位	(区間 13 位)	(区間 10 位)	(区間 21 位)	(区間 6 位)	(区間 10 位)	(区間 12 位)
総合	30.51(13 位)	40.30(11 位)	1.07.23(17 位)	1.23.50(14 位)	1.40.37(14 位)	2.06.00(13 位)

25 大学対校駅伝女子結果(16.62 km) 総合順位 3 位

	1 区(5.17 km)	2 区(3.14 km)	3 区(7.69 km)	4 区(5.17 km)
氏名	高野 美幸	廣瀬 未来	荒井 芽衣	増田 梨沙
区間	18.41	11.36	11.24	19.51
順位	(区間 1 位)	(区間 6 位)	(区間 2 位)	(区間 5 位)
総合	18.41(1 位)	30.17(3 位)	41.41(2 位)	1.01.32(3 位)

## 第 64 回勝田全国マラソン

(2016/1/31 ひたちなか)

1月31日に第64回勝田全国マラソンが開催されました。院2年次、4年次、そして長距離のメンバーからも二人がフルマラソンに、長距離のメンバーが10kmに出場しました。今年の勝田マラソンは前日までに雪や雨が降り、当日の天候が心配されていました。しかし、当日は天候に恵まれ、晴天の下スタートすることができました。地域の方々による沿道からの応援や、5kmごとの部員からの応援を受けてゴールを目指しました。応援のおかげもあり、今年、フルマラソンに出場した院2年次、4年次が誰一人途中棄権することなく全員、完走することができました。また、10km女子39歳以下の部では、3年次高野が7位、2年次増田が9位と健闘しました。42.195kmという長い距離を走りきことは一人では決してできることではなく、応援してくれる皆さんの力を改めて感じることでできた大会となりました。(文責:村山靖真)

### 勝田全国マラソン結果

男子フルマラソン 39歳以下(3280人中)					
氏名	記録	順位	氏名	記録	順位
藤井 駿丞	2.54.13	195	村山 靖真(4)	5.34.12	2887
山本 智晴	3.05.54	352	福田 智仁(4)		完走
伊藤林太郎(4)	4.24.50	1777	柴 俊博(M2)		完走
奥山 康太(4)	5.05.18	2508	荒井 啓輔(4)		完走
沖崎 一也(4)	5.20.05	2694	猿田 康陽(4)		完走
平沼 清一(4)	5.22.09	2717	近藤 顕二(4)		完走
女子フルマラソン 39歳以下(480人中)					
杉浦ちはる(4)	5.37.11	414	加藤 祐実(4)		完走
永瀬麻梨凜(4)	5.51.14	449	山内 裕香(4)		完走
男子10km 39歳以下(1469人中)					
小野 隼太(2)	31.52	11	長谷川大輔(3)	34.27	47
平塚 悠太(3)	33.34	30	伊藤 太一(M2)	58.07	785
女子10km 39歳以下(989人中)					
高野 美幸(3)	36.28	7	細谷 優花(2)	44.58	20
増田 梨沙(2)	39.31	9	渋谷 弥生(3)	48.03	37
荒井 芽衣(3)	43.44	16			

ii) その他の主な競技会の結果

茨城県選手権(2015) 8位入賞者

種目	記録	氏名	順位
男子 100m	10.70(+0.5)	伊藤 太一	2位
男子 110mH	15.65(-0.3)	村山 靖真	6位
男子 4×100mR	41.01	伊藤(林)・伊藤(太)・猿田・沖崎	1位
男子 棒高跳	4m50	堀尾 佳希	5位
	4m20	木内 智也	6位
女子 100m	12.43(0.0)	加藤 佑実	2位
女子 200m	25.64(+0.7)	加藤 佑実	4位
女子 5000m	17.10.01	金子 美鈴	3位
女子 100mH	15.25(-0.1)	蛭名 史織	3位
女子 400mH	1.06.86	佐久間 彩	5位
女子 3000mSC	11.24.53	高野 美幸	1位
女子 4×100mR	49.26	後藤・加藤・大塚・蛭名	2位
女子 4×400mR	4.01.64	小林(莉)・塚田・後藤・蛭名	4位
女子 棒高跳	3m20	山内 裕香	2位
女子 やり投	42m11	安田 萌	6位
女子 七種競技	4161点	大塚 美穂	2位

その他の競技会(入賞者のみ記載)

大会名	日時	種目	記録	氏名	順位等
栃木県選手権	5/29～31	女子円盤投	40m50	神山 結衣	1位
岩手県選手権	6/26～28	男子1部 3000mSC	9.24.48	小野 隼太	2位
関東選手権	8/21～23	男子 100m	10.58(+4.5)	伊藤 太一	6位
		女子 3000mSC	11.34.98	高野 美幸	6位
		女子七種競技	4387点	大塚 美穂	3位



### iii) その他の活動

#### 協力審判員

私たち茨城大学陸上競技部は、競技者としてだけでなく、協力審判員としても陸上競技に関わっています。今年度も笠松スポーツフェスティバルや中学生の陸上記録会を中心に参加させていただきました。この活動では、普段と違う視点から陸上競技に携わることができるので、陸上競技についての理解を深めることができました。また、どのような形で大会が支えられているのかを知ることができる機会でもあります。今後もこの機会を大事にして活動していきたいと思っております。(文責:増田梨沙)

#### 主な審判員活動の内容

跳躍審判, 投擲審判, 監察員, 周回記録員, 風力計測員, 写真判定員, 記録員, 競技者係, 出発係, 光波計測員

2015 年度審判補助員活動一覧

月日	大会名
5/2	中学記録会
6/6	中学記録会
6/13	中学記録会
6/20	全国小学生交流大会
6/21	笠松スポーツフェスティバル陸上記録会
6/27,28	全日本中学通信陸上競技大会
7/3~5	茨城県陸上競技選手権大会
7/11,12	茨城県中学総体
7/19	笠松スポーツフェスティバル陸上記録会
8/21~23	関東陸上競技選手権大会
9/19	中学新人記録会
10/10~15	第30回25大学対校陸上競技大会

#### 冬合同合宿

12月26日~28日にかけて、阿字ヶ浦クラブ・阿字ヶ浦海岸にて冬合宿が行われました。今年も茨城大学、宇都宮大学、千葉大学、群馬大学、高崎経済大学の5大学での合宿で、1日目~2日目にかけては県内の高校生も参加し200人を超える合同練習となりました。昨年同様3日間を通して阿字ヶ浦の砂浜および周辺の道路や日立市民陸上競技場、村松を中心に行い、2日目には短距離を除く3ブロックが初めてひたち海浜公園も利用して練習を行いました。1日目には全ブロック合同でのアップを行い、緊張感を持ちつつも楽しみ、いい雰囲気の中スタートしました。最終日には全ブロック合同の砂浜でのエンドレスリレーを行いました。普段とは違った雰囲気の中で、互いが刺激し切磋琢磨しながら高いモチベーションで練習に取り組み、新たな発見や再認識することができた非常に有意義な合宿でした。今回参加した大学とは来シーズンの対校戦でも顔を合わせるので、様々な人とコミュニケーションをとり交流を深められた点も良かったと思います。この合宿を機に、普段から他大学を意識し高いモチベーションのなかでの練習が継続できれば尚良いと思っております。(文責:廣瀬未来)

### Ⅲ. 2016 年度シーズンの抱負

#### 主将抱負

主将 小野隼太

今年度のテーマは「闘波(とうは)」です。「闘」には対校戦で闘うという意味だけでなく、自分自身と闘う(向き合う)、チーム内のメンバーと闘う(切磋琢磨する)という意味もこめました。また「波」には部員一人ひとりがチーム全体に勢いを付ける、大きな波を起こせる存在になれる、という意味をこめました。どれも茨城大学陸上競技部が強くなるため、そしてその先にある人間的な成長を目指す上で大切なことだと思います。

今年度のチームの競技目標「25 大対校で男女アベック 3 位入賞」を達成すべく、スタッフ一同、自分自身と向き合って、闘いながら 1 年間頑張ります。どうぞ宜しくお願いします。

#### 主務抱負

主務 後藤晴菜

今年度の主務を努めさせていただくことになりました、後藤晴菜です。今年度は一人で務めることとなりますが、チーム内での情報共有を徹底に行い、スタッフを初めとしたチームの協力を受けながら、しっかりとやるべき仕事に務めていきたいと思っています。主務としての仕事ももちろんなのですが、チームの一員として、全体を見渡しながら一つの目標に全員で向かえるようなチーム形成にも積極的に取り組んでいきたいと思っています。時には先生方、先輩方の力を貸して頂くこともたくさんあるとは思いますが、一年を通して責任感を持って務めていきたいと思っていますので、お力添えの程よろしくをお願いします。一年間よろしくをお願いします。

#### 中長ブロックの抱負

中長ブロック長 小野隼太

主将と兼任になります。中長ブロックとしては、男子が 11 年振りの箱根予選会への挑戦。そして、数年計画で進めてきた「荒川駅伝、25 大駅伝男女アベック優勝」への挑戦。さらに、来年度は多くのメンバーが最後のシーズンとなり、中長ブロック全体として勝負の年となります。

そのような年にブロック長を任されることにプレッシャーを感じていますが、選手一人ひとりと対話し、その想いと向き合うこと。それを大切に、選手が目標を達成できるように、後悔ないように、全力でサポートしていきたいと思っています。

また、当たり前のことですが、ブロック長も選手です。関東の強豪がひしめくこの長距離界で、茨城大学をアピールしていきます。どうぞ宜しくお願いします。

#### 短距離ブロックの抱負

短距離ブロック長 小林柊次郎

昨シーズンは目標としていた男子四継にて日本インカレ出場を果たしましたが、メンバーの中心であり、各対校戦にて入賞を果たしてきた上級生が抜けてしまいました。まず、その大きな穴を埋めるために、ブロック長として何ができるのかしっかり考え伝えていきたい。人数の多いチームであるため、1 人 1 人が力をつけて 1 人でも多くの関東インカレ出場者を増やすことで各対校戦でも大きな戦力になるに違いないため、責任と自信を持ってサポートします。競技でも引っ張っていけるブロック長を目指します。

## 跳躍ブロックの抱負

### 跳躍ブロック長 大塚美穂

今年度の跳躍ブロックの目標は、個人が各対校戦で力を発揮し、最終的には全員が関東インカレの標準を突破できるようにすることです。この目標を達成させるためには、ブロックの競技力の底上げを図ることが重要だと思います。そこで、今年1年間、跳躍ブロックでは、「常勝」をテーマに個人の意識改革から取り組んでいきたいと思っています。

「常勝」とは、言葉の意味通り「常に勝つ」ということです。その日の自分に勝つという小さなことから、大会で常に勝ち続けるといった大きなことまで、各個人にあった「常勝」を積み重ねていくことによって、成果につながっていくのではないかと考えています。

跳躍ブロックの皆さんがシーズンを終えて、「今シーズンはいいシーズンだった」と思ってもらえるようにブロック長として全力でサポートさせていただきたいと思います。また、私自身も競技面で結果を残し、ブロックを盛り上げていけるように頑張ります。1年間、よろしく願い致します。

## 投擲ブロックの抱負

### 投擲ブロック長 富岡泰資

今年の投擲ブロックの目標は「全員関東インカレ出場」と「各対校戦での上位入賞」を上げていきたいと思っています。

1 つ目に関しては現在投擲ブロックはブロック員の大半が標準記録の突破をする事が出来ています。全員で出場して勝負することを目標にし存在感を示す事を目指し練習をしていきます。

2 つ目に関しては各々の能力を考えれば十分に達成が可能であると考えています。しかし昨年はなかなか大きな対校戦では結果を出す事が出来ずにいました。メンバー間で切磋琢磨し競技レベルを向上させることでしっかりと各々が結果を残し、より多くの点数を取りチームへの貢献を目指していきたいです。

人数の多いブロックではありませんがチーム内での存在感をより増し、茨大陸上部に投擲ありと思ってもらえるようなブロックを目指し活動していきます。

## マネージャーブロックの抱負

### マネージャーブロック長 石堀美柚

マネージャーブロックは、自らアンテナを立てて、積極的に選手とのコミュニケーションを図っていききたいと思います。どんなサポートを望んでいるのか、選手の視点で考え、動くことを忘れず、やるべきことを明確にしながらも、選手の声に答えるサポートをさらに増やしていきたいです。

部活動を盛り上げ、選手のパフォーマンスを後押しするために、マネージャーとしてできることをブロック員一人一人が考え、責任をもって活動していきたいと思っています。より良い環境を整えるために、マネージャーの視点を磨いていきます。まだまだ至らない点が多くありますが、今後ともよろしくお願いいたします。

## 日立ブロックの抱負

### 日立ブロック長 樋口卓哉

日立ブロックでは、日立ブロックだからこそ出来ることをしていきたいです。

まずは自分で言うのもなんですが日立ブロックのメンバーはテンションが高い者が多い気がします。一緒に練習するたびにみんなに元気を届け、部のモチベーションの向上の手助けをしていきたいです。そして陸上競技としても水戸の方々に煽りに煽って互いに切磋琢磨し、部としてまた個人としての競技力向上にも努めていきたいです。

新たに加わる伊藤、半澤、木内祥太、木内智也と共に日立ブロックを盛り上げていきたいです。

#### IV. 2016 年度活動予定

##### 2016 年活動予定

日程	大会名	場所
5/19～22	第 95 回関東学生陸上競技対校選手権大会(関東インカレ)	日産スタジアム(横浜)
6/10～12	2016 日本学生陸上競技個人選手権大会	Shonan BMW スタジアム平塚(平塚)
6/24～26	第 100 回日本陸上競技選手権大会	パロマ瑞穂スタジアム(瑞穂)
7/1～3	第 71 回茨城県陸上競技選手権大会	笠松運動公園陸上競技場(那珂)
8/7	第 51 回千葉大学茨城大学対校陸上競技定期戦	千葉県総合スポーツセンター(千葉)
8/18～21	第 89 回関東陸上競技選手権大会	千葉県総合スポーツセンター(千葉)
8/25～26	第 65 回関東甲信越大学体育大会	山梨中銀スタジアム(甲府)
9/2～4	第 85 回日本学生陸上競技対校選手権大会(日本インカレ)	熊谷スポーツ文化公園(熊谷)
9/9～10	第 48 回関東理工系学生対校陸上競技大会	鴻巣市立陸上競技場(鴻巣)
9/16～18	第 27 回関東学生新人陸上競技選手権大会	相模原ギオンスタジアム(相模原)
9/19～21	第 31 回国公立 26 大学対校陸上競技大会	Shonan BMW スタジアム平塚(平塚)
10/7～11	第 71 回国民体育大会	北上総合運動公園(北上)
10/15	第 93 回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会	昭和記念公園(立川)
10/30	第 67 回北関東五大学対校陸上競技大会	正田醤油スタジアム(前橋)
12/	第 71 回三浜駅伝競走大会	ひたちなか(那珂湊)
12/	第 17 回荒川河川敷大学対校駅伝競走大会	荒川河川敷(北区)
12/	宇都宮・千葉・群馬・高崎経済大学合同合宿	未定
1/	第 14 回国公立 26 大学対校駅伝大会	熊谷スポーツ文化公園(熊谷)
1/29	第 65 回勝田全国マラソン	ひたちなか
3/	第 27 回楮川駅伝競走大会	楮川ダム(水戸)
3/25～26	関東学生春季オープン陸上競技会	江戸川区陸上競技場(江戸川区)

## V. 卒業生・修了生より

### 伊藤太一

「大学院での陸上競技生活を振り返って」

この2年間は多くの人に支えられて競技をしてきました。そして、6年間を過ごした茨城大学での生活にも、区切りを付けなければいけない時を迎えました。大学院での陸上生活は「繋」で表すことができると思います。陸上競技を通して先生方、同期、先輩、後輩と出会うことができました。多くの人との出会いがあったからこそ、人として、競技者としてここまで成長することができたと感じています。

個人種目では4年前の自己ベスト更新は叶いませんでした。しかし、大学院へ進学した目標の1つであった「リレーで日本インカレ出場」は達成することができました。多くのハプニングが有りましたが、チームが一丸となって取り組むことができた結果だと感じています。チームとして、個人として、無いものをねだるより、有るもので強くなるのが倒せつだと感じました。工夫して、考えて、結果を残してきた先輩方はたくさんいます。大切なのは「工夫すること」、「考えること」だと思いますので、それを忘れないください。

決して順分満帆な2年間ではなかったと思います。しかし、先生方や先輩、後輩、そして同期のみんなの支えてもらい競技を続けることができました。上地先生、渡邊先生のご指導をはじめ、OB・OGの皆様、先輩、後輩、同期に出会えて本当に幸せでした。そして、こんなに素晴らしい方々に囲まれて陸上競技が出来て良かったです。本当にありがとうございました。

教育学研究科/保健体育専修/短距離

100m・10秒56 / 200m21秒14



### 川部優太

中学から陸上競技を始め、種目は100mからいつの間にか400mHになり、引退試合となってしまった大会では転び、私の約12年間の陸上生活はとても充実したものでした。この陸上生活、振り返ってみると思い浮かぶのは、「人」です。中学、高校、大学とそれぞれ指導してくれる人がいて、一緒に練習してくれる人がいて、ライバルがいて、応援してくれる人がいる。そんなたくさんの人がいることが私にとって、とても幸せです。正直、大学陸上では、思うような結果を出せず、練習時間を確保できず、夢中になりきれなかったというのが一番の印象です。それでも、大学にいた6年間で、先輩、後輩、同期を合わせて10世代の方々とお過ごした日々は私をとても豊かにしてくれました。今の自分があるのは、競技を通して、陸上部を通して関わりあった皆さんのおかげです。

これから、長い学生生活を終え、社会人になります。当たり前ですが、初めての社会人。右も左もわかりません。しかし、陸上を12年続けてこれたということが自然と自信になり、どうにかならんじやないかと正直思っています。皆さんに伝えられることは多くありませんが、今は、何も考えず陸上に夢中になってください。それが誇りになって、陸上以外でも通用する人間になっていることだろうと思います。何かに夢中になるのは、きっと今だけ。今しかできないことを見落とさないで、充実した大学生活を送ってください。

最後になりますが、上地先生、渡邊先生、先輩方、後輩のみんな、同期のみんな、皆様のおかげで私は人間としてここまで成長することが出来ました。ここに言葉では表しきれない感謝を示します。ありがとうございました。顔を出した際には、温かく迎えてください。これからも陰ながら応援しています。

理工学研究科/都市システム工学専攻/短距離

400mH・54秒24



## 柴俊博

「大学院での2年間を振り返って」

時が経つのは早いもので、あと少して2年間の大学院生活を終えようとしています。

大学院への進学が決まった時、学部時代の延長としての大学院生活ではなく何か違うことがしたいと考え、投てき競技を始めました。大学4年の時と比べると10kg以上体重も増え、人間変われば変わるものだなと感じています。特にウェイトトレーニングでは、短距離をやっていた頃には考えられなかった重さも上げることができ、いかに自分の中で限界を作っていたかということの思い知りました。

また、投てき競技は初心者ということもあり、この2年間先生方や後輩、他大学の方々など多くの人に様々なことを教わりました。その中で人と関わることや、学ぶ姿勢を持ち続けることの大切さを改めて実感したように思います。

4月からは、人に教える立場になるので、この部で学んだことをしっかり活かして頑張りたいと思います。

最後になりましたが、6年間と長い間ご指導いただいたり、ご迷惑をおかけしたり、支えていただいた上地先生、渡邊先生、同期や先輩後輩の皆様、本当にありがとうございました。

教育学研究科/理科専修/投てき

円盤投・31m17 / 砲丸投・8m72



## 荒井啓輔

大学での4年間を振り返ると、その中心にあったのは、間違えなく部活でした。入部したとき、「渡邊先生の茨大記録を塗り替え、インカレに出る。」と言っていた私ですが、結局その目標は果たせずに終わってしまいました。それでも目標を追いかけ続けた4年間は私にとって、本当に貴重な経験となりました。特に4年生の時に関カレ標準を突破し、沖崎と抱き合って喜んだのは今でも鮮明に覚えています。あきらめずに続けることの大切さを身をもって体感することができました。

ケガに苦しみ、部活を辞めたいと思うことは何度もありましたが、それでもあきらめずに続けられたのは、同期のみんながいてくれたからです。ぶつかるときもありましたが、みんなに支えてもらって、今の私があります。本当にありがとう。

最後になりましたが、上地先生、渡邊先生、本当にお世話になりました。先生方には陸上競技の面だけでなく、1人の人間としてたくさんの方を指導していただきました。本当にありがとうございました。

教育学部/保健体育/投てき

やり投・56m97



## 伊藤林太郎

「4年間を振り返って」

部誌を書き始めるにあたり、1番に思うのは、「まだまだ茨大陸上部に居たかった。」です。それは1つに、皆と一緒に練習したり、試合で自己ベストが出たり、標準切りでみんな抱き合って喜びあったり、オフにはみんなと遊びに出かけて色々なことを話したり、どの瞬間を切り取ってもかけがえない最高の思い出であること、もう1つに、自分の立てた目標を達成しきれず悔しい思いをしたこと、この2つからきている感情だと思います。



いつでも的確なご助言を下さる上地先生、教育実習明けでフォームに悩んでいるときなどいつも気にかけて下さる渡邊先生、いつでも優しくいろいろなことを教えてくださった偉大な先輩方、くだらない話を笑って聞いてくれた後輩の皆さん、最高に楽しい大好きな同期のみんな、周りの方々に大変恵まれて、支えていただいた4年間であったと、感謝の気持ちでいっぱいです。

これからは、OBとして皆さんの活躍を陰ながら楽しみに応援しています。本当にありがとうございました。

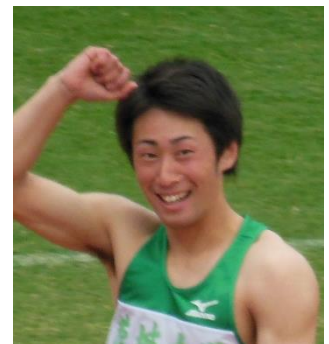
教育学部/保健体育/短距離

100m・10秒85/200m・21秒83

## 沖崎一也

この四年間を振り返って、いよいよ本当に卒業してしまうと考えると寂しいです。一生大学生でいたいくらいの気持ちです。

この四年間を振り返ってみると、楽しいことばかりでした。一年生では同期で飲み会をしたり、先輩にたくさん遊んでもらったり、二年生では記録が伸び始めて、三年生で一気に記録が伸び、四年生では関カレに入賞、インカレに出場できました。また、先輩・同期・後輩とも、たくさんの最高の友達ができ、一生ものです。陸上を続けていたからこそ、こんなに良い大学生活を送れたので、陸上部に入って本当に良かったと思っています。



僕は高校では試合に出ることすらできなくて、高校で陸上は終わりにしようとしていたのですが、先輩に誘って頂いて陸上部に入った結果、大学で記録が大幅に伸びました。今考えると、僕の場合高校の我慢の時期があって、そこで終わりにしなかったからこそ良かったのかもしれません。個人個人伸びる時期は違うと思います。なので、今後も何かしらの形で僕も陸上は続けていきたいです。

最後になりましたが、四年間ご指導して下さった上地先生、渡邊先生、一緒に練習できた先輩、同期、後輩本当にお世話になりました。本当にありがとうございました。

工学部/都市システム工学科/跳躍

走幅跳・7m03/三段跳・14m64/棒高跳・4m40/100m・10秒80

## 奥山康太

大学で部活なんか・・・と思い、いろいろなサークルを見学していたのが四年前と思うと、とてもあっという間の四年間だったように感じます。結局どのサークルもピンと来ず、気が付いたら陸上部に入部していました。

四年間を振り返るとその時その時でいろいろな思い出がありますが、運営に携わっていた三年次は特に濃い一年でした。日夜、ああでもないこうでもない、文字通り陸上漬けの日々を送っていましたが、一つのことにあれだけ時間を使うことができたというのはとても幸せなことだったのだと思います。四年次は就活や卒論等もあり、部活一辺倒というわけにはいきませんでした。良い意味で部活中心の生活に変わりはありませんでした。入部当初は思いもしなかった大学生活でしたが、充実した日々を送ることができました。ガッツリ青春しました！！

今後は茨大陸上部の一ファンとして陰ながら応援させていただきます。

最後になりましたが、四年間の陸上競技を通して関わったすべての方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

理学部/地球環境コース/中長距離

100m・11 秒 97/400m・51 秒 74/800m・1 分 58 秒 14



## 加藤祐実

「4年間を振り返って」

部活を引退し、卒論も終わり、最後の学生生活を楽しむ日々を送っています。部活が生活の中心であった頃が懐かしく、もう一度陸上にのめり込みたいなあ、ふと思います。

陸上をしていた時は、つらい事や苦しいことの方が多く感じられ、練習に行きたくないと思う日もありました。でも今振り返ると、グラウンド整備から始まり、全体で集合して、たわいもない話をしたり、きついメニューを一緒にこなしたり、練習後にお互いにマッサージをしたり、写真を撮ったり、みんなで食事に行ったり・・・本当に毎日当たり前のようにしていたことが、たまたまなく幸せだったと感じています。

茨大の陸上部に入部したからこそ、出会えた先輩、後輩、同期の仲間がいて、私の大学4年間は「茨大陸上部」でできていることに、今更ながら気づかされました。競技面では、達成できなかった目標もあり、いまだに悔しい気持ちを残していますが、大学まで陸上を続けてよかったと心底思います。陸上を通して学んだことを、社会人になってからも忘れず、頑張りたいです。

教育学部/健康/短距離

100m・12 秒 32/200m・25 秒 46





## 近藤 颯二「大学 4 年間を終えて」

大学での陸上競技を終えて、まず思うことは楽しかったということです。最初の 2 年間は記録が順調に伸びて、競技に対する楽しさを十分に味わうことができました。後半の 2 年間はケガを引きずり、思うようなパフォーマンスができなくなったことで試行錯誤をし、今までは気付かなかった自分を発見する楽しさを味わうことができました。そして何より、4 年間を通じて陸上で出会えた仲間と最高に楽しい時間を過ごすことができました。つらいことや悲しいこと、悔しいこともたくさんありましたが、今まで全部楽しかったと胸を張って言える 4 年間を過ごせた、この陸上競技に心から感謝しています。



私にとって陸上競技、特にやり投との出会いは人生を大きく変えるものでした。7 歳の時に足の病気にかかり、スポーツに制限がかかってしまってから何もかも中途半端だった自分が初めて本気でやろうと思えた競技で、投げられなくなってしまった今でも大好きな競技です。自分の限界に挑み、そして超える、その瞬間の感覚が何より気持ちよく、そしてまた新たな高みを目指して挑み続ける陸上競技から学べたことを、今後の研究に生かして、これからの修士 2 年間は励みたいと思います。また、今後陸上競技は趣味として時に競技者、時には観戦者としてこれからも競技を続ける方々のサポートをしていきたいと考えています。

最後になりましたが、良いときも悪いときも変わらず指導して下さった上地先生、渡邊先生、心から尊敬している先輩方、何年先でも集まって一緒に騒ぎたい同期、どんなに生意気でもかわいく思える後輩、本当にありがとうございました。最高の 4 年間でした。

工学部/マテリアル工/投てき

やり投・60m81/円盤投・32m42/走幅跳・6m34

## 猿田 康陽

こうして、部詩の文章を書くことで、自分の卒業がもう目の前まで迫っていることを改めて実感します。茨城大学に入学し、陸上競技部に入学して 4 年が経ちました。陸上競技部で過ごした 4 年間はとても密度が濃く、あっという間に過ぎ去っていきました。

4 年間で振り返ってみますと、怪我まみれではありましたが、いろいろな思い出があります。その中でも関東インカレ、日本インカレでの経験は私にとってかけがえのない財産です。このような結果が残せたのは、茨城大学陸上競技部のみなさんのおかげです。こんな部活に出会うことができ、本当に私は運が良かったと思います。

私は来年度から茨城を離れ、新天地での生活となります。少々の期待と大きな不安がありますが、茨城大学陸上競技部で学んだことを活かしてより成長できるように努めます。本当にありがとうございました。皆さんのご活躍を祈っております。

工学部/マテリアル工/短距離

100m・10 秒 89/200m・22 秒 91



## 杉浦ちはる

終わってしまったものはあつという間に感じるもので、私の四年間も気づいたら終わっていたなと思います。

陸上部に入っているか入っていないか何かしらは後悔して、何かしらは得るものがあった、部活を現役でやっている最中は部活に入っていなかった自分に思いをはせていたりもしたけれど、今引退してすべてが終わると部活に入っていなかった 4 年後の今現在の自分が想像もつかなくて、人生は難しいなあと思っています。

今思うことは、人生、人との出会いが大切だなという事です。4 年間を終えられたのは同期や先輩、後輩が居場所を与えてくれたからだと思います。個人スポーツですし、一人いなくてもあまり変わらない中、毎日あいさつしたり、声をかけてくれたり、励ましてくれたり、相談に乗ってくれたり、そんな支えがなかったら途中でいなくなっていたと思います。反省文集にも書きましたが、また会いたいと思える人がたくさんできたのは陸上部に入って一番よかったと思うことです。

では、またどこかで懐かしい話でもできればいいなと思います。最後になりましたが多くの人に本当にたくさんお世話になりました。ありがとうございました。

教育学部/健康/短距離

400m・65 秒 37



## 永瀬麻梨凜

自分が部誌を書くのも、卒業するのもまだまだ先のことだと思っていましたが、あつという間に来ていました。

4 年間で振り返ると、良くも悪くもさまざまなことを体験することができたと思います。約 10 年も取り組んだ新体操にバーンアウトしたものの、入学した先は体育科。球技は出来ないから陸上競技がいいかな、という軽い気持ちで入部していました。

しかし、練習では常に「その歩き方・走り方では怪我をする」と先生方に言われ続け、本当にその通りでした。「やっぱり自分には向いていなかった」と何度も感じ、目標も曖昧なままただ練習をするだけの日々を送っていました。そして、勝手に部活に顔を出さなくなって、多くの方にご迷惑をお掛けし、本当に申し訳ございませんでした。色々考えて、最終的には 3 年次から跳躍ブロックへ移りました。急にブロック員として入っても、温かく迎え入れてくれたのが本当に嬉しかったです。「跳躍を」というのは遅すぎる選択でしたが、この決断をしたことで陸上競技の新たな魅力を感じ、トレーニング以外にも重要なことは多くあると学べ、何より「一生懸命になること」が中学生振りくらいにできました。競技に対して本気になろうとすることはなかなか簡単なことではないし、沢山のエネルギーが必要だと思いますが、本気で取り組もうとするからこそ、新たに知ることや感じることも数多くあったと感じています。センスも筋力も基礎体力も十分でない私でも、身体の使い方や感覚がわかるようになり、競技の深さを体感し、競技に対しても一生懸命になれました。初めは恐る恐る挑んだ高跳も、練習皆無で試合に臨んだ三段跳も、全てが今では良い思い出です。ただ私は残念ながら、関東インカレや日本インカレの出場や、対校戦で表彰台に上れるような輝かしい成績なんて残せてもいないし、一番達成したかった目標もクリアできませんでした。結局「やりきれた」という満足感でいっぱいにはなれなかったの、緩く楽しく、もう少し競技をしようかなと思います。

「一生懸命になること」が大学生になってもできるというのは、きっと素敵なことなのだと今となっては感じられます。時間は有限だからこそ、密度の濃い競技生活を後輩の皆さんに是非とも送っていただきたいです。

最後になりましたが、上地先生、渡邊先生、OBOG の皆様をはじめとした先輩方、同期、後輩、お世話になりました。本当にありがとうございました。今後の活躍を心より願っております。

教育学部/健康/跳躍 走高跳・1m55/三段跳・10m73



## 平沼清一

とにかく記録を伸ばせなかったことが悔しい。

思い返せばそのことだけが悔やまれます。

考えて走って考えて走って考えて感じたことを少し述べます。日々の繰り返しの中で技術を体得し、悪い癖がつき、競技は習慣に支えられ、悪癖に阻まれ、その習慣や癖のほとんどは、日々の無意識の積み重ねであり、無意識を意識に引き寄せることが練習であり、自分自身では気づきにくい厄介なこの無意識をどうするかが競技に重要なことだと感じます。身近で優れた人は、「癖が出たら指摘して欲しい」と話していました。自覚しにくい癖を指摘しあえることが、チームの大きなメリットだと思います。この「競技」を「人生」と読み替えると、チームこそが人生のあらゆる場面で大切なのではないのでしょうか。

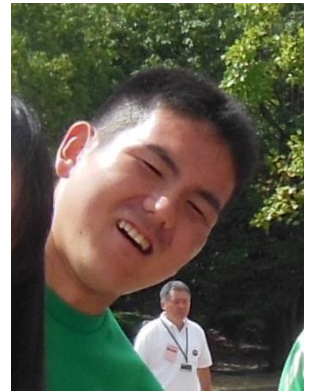
順調なだけの競技ではありませんでしたが、一つ一つの出来事が重なって、今の私の習慣となり、そのどれもがチームメイトに支えられたものです。

大学陸上 4 年間で振り返ると、たくさんのお会いと別れがありました。先生方に支えられ、新入生には心躍り、他大との交流には緊張して、卒業の今は寂しい気持ちです。みなさんにめぐりあえて本当に良かったです。ほんの少しですが、私が縮めることのできたタイムは、本当にみなさんのおかげです。

最後になりますが、熱心にご指導いただきました上地先生、渡邊先生、滑川コーチ、切磋琢磨した陸上競技部の皆様に深く感謝します。また、卒業する同期のみんなの健闘・活躍を祈っています。

教育学部/技術/短距離

100m・11 秒 36/200m・23 秒 17



## 福田智仁

4 年間の陸上部での生活も終わるのを実感しています。

この茨大陸上部での 4 年間、良い思い出はあまりありません。入学当初は「200m で 21 秒台」を目標にしていたのですが、1 年生の 5 月に肉離れをしてから怪我続きで、最終的には怪我の再発を恐れて全力で走れなくなってしまいました。しかし、怪我のおかげで得られたものも多くあるように感じています。

今は結果を残せなかった後悔のほうが大きく、陸上部に入って良かったと思うことはできませんが、いつか心の底から良かったと思う日が来ると信じています。

最後になりましたが、上地先生、渡邊先生、先輩・後輩の方々、長い間お世話になりました。

人文学部/人文コミュニケーション/短距離

100m・11 秒 30/200m・22 秒 18/400m・49 秒 77



## 村山靖真

去年は、自分がこの原稿を先輩方にお願ひし、催促していたことを考えると書いているのが不思議な気分です。この文章を書いている時点では勝田マラソンも卒論の発表会も終わっていません。皆さんがこの文章を読む時点で私はフルマラソンを完走できているのか、そして大学を卒業できるのかは、現時点ではまったく分かりません。10月の25日大最終日に参加しておらず、実のところ引退したという実感が薄かったりします(かなりの頻度で練習に混ざっているせいもあるのでしょうか)。あまりにも高頻度で現れてすいません。



さて、大学を卒業できると仮定して、文章を進めますが、大学での陸上競技は、色々あったなと思います。陸上競技を本気で辞めたいと思ったり、役職に久しぶりについたり、大幅に自己ベストを更新したり、陸上競技を大学卒業しても続けようと思ったりなどですね。色々あった中で陸上競技を大学4年間続けることができたのは、人との関わりが大きかったのではないかと思います。多くの人に助けられてここまで競技を続けることができました。大学卒業後も陸上競技を続けるという選択肢を考えることができたのも陸上競技で関わった先輩の誘いがあったからこそです。茨城大学陸上競技部の皆さん、これまでありがとうございました。

4月以降も大会や競技会で会うことや練習に参加させてもらうことがあるかもしれませんがそのときはよろしくお願ひします。

人文学部/社会科学/短距離

110mH・15秒 21/400mH・63秒 29/100m・11秒 88

## 山内裕香

4年間はあっという間に過ぎてしまいました。不思議なもので泣いてばかりいたのに、陸上部での楽しかった思い出が沢山思い出されます。

競技部であるにも関わらず、大学1年生から自己ベストを出す事も出来ず、中途半端で自分自身が本当に情けないです。それでも、ここまで続けることが出来たのは、先生方、先輩方、後輩達、同期、他大の方、いろんな方との出会いがあり、応援してもらい、支えてもらったからです。この出会いは大学4年間だけでなく、人生の宝物です。大学で陸上を続けて、4年間続けることができ、本当に良かったです。感謝の気持ちでいっぱいです。



卒業しても、沢山の人の繋がりを大切にしたいです。そう思える人たちと出会い、一緒に練習したり、試合で話をする事ができて幸せでした。

陸上部で学んだことは沢山あり、心身共に成長することができました。この4年間で得たことは一生忘れずにこれから社会人になっても頑張りたいと思います。

教育/スポーツ/跳躍

棒高跳 3m52

## VI. OB/OG 近況報告・現役部員へのメッセージ

### 青柳達也

みなさんこんにちは。ちよくちよく部活に顔を出す青柳です。現在私は、日立市大甕にてシステムエンジニアとして働いています。仕事では、ガスプラントやビール工場などの状態監視画面とか作ったりしています。まだまだ見習い中でわからないことが多く、しょっちゅう壁にぶつかっています。「2、3年仕事してれば、自然とわかるようになるよ」と先輩は言いますが、先輩方の問題解決能力の高さに脱帽の毎日です。



さて、みなさんへのメッセージですが、「自分にとって、一番大事にしたいことは何か？」を考えてほしいと思います。健康でしょうか？仕事でしょうか？部活、勉強、遊び、家族やパートナーや友だち、自分のやりたいこと……。人それぞれですが、大事にしたいことってたくさんありますよね。しかし、学生にしても社会人にしても、自分の体はひとつしかないし、誰にとっても1日は24時間です。できることは限られています。あれもしたい、これもしたいと貪欲に思う事は良いことだと思います。がむしゃらに頑張ることも大事です。しかし、あれもこれも頑張ってしまうと、本来、一番大事にすべきことを見失ってしまうかもしれません。私は、「実はそんなに大事じゃないこと」に力を入れ過ぎて、「本来大事にすべき事」を見失っていた経験があります。みなさんには、一番大事なことを優先して、悔いのない選択をしてほしいと思います。

最近の日曜日に、水戸近辺の高校生達とともに棒高跳の練習したり、指導したりしています。今年も茨城県選手権に出るので、また勝負しましょう。

理工学研究科/理学専攻物理系/跳躍

棒高跳・4m40 / 三段跳・12m87

### 栗原航介

皆様こんにちは、そしてお久しぶりです！2014年度に茨城大学大学院を修了した栗原です。時が経つのは早いもので、卒業から1年が過ぎようとしています。この一年間も充実しており、たくさんの対校戦を見に行くことができました。その節はみなさん暖かく迎えていただきありがとうございます。私は今、都内にある建設コンサルタント会社に働いており、一流の技術者を目指して日夜勉強に明け暮れています。最近は大変な残業が増えてきて、遊ぶ時間があまり取れなく嘆いていますが、茨大で過ごした6年を思い出しつつ頑張っています。



さて突然ですが、みなさんにとっての「一流の人間」とはどんな人だと思いますか。一流と聞くと、漠然と「すごい人」のことかなと考える人が多いと思います。コンサルとしての一流の技術者というのは、顧客の要望に応えるだけではなく、顧客の想像を超え思いも寄らない提案をできる人のことだと私は考えています。(と新入社員研修の時に答えたら上司に感心されました！)これはスポーツの世界でも同じことが言えて、応援している観客の期待を超えた結果を残せる人のことを一流と呼ぶのではないのでしょうか。期待に応えるだけではなく、期待を裏切り感心・感動させる選手はまさに一流ですね。

最後になりますが、茨城大学陸上競技部のみなさんの活躍を期待しています。ぜひ、その期待を裏切り、一流の人間になってください。それでは、また会う日まで。

理工学研究科 / 都市システム工学 / 跳躍

走高跳・1m70 / 走幅跳・5m95 / 三段跳・12m60

## 大貫綾子

皆さん、こんにちは。昨年度卒業した、大貫綾子です。今私は、茨城から少し離れた群馬の地で、大学院に進学し、院生の1年目が終わろうとしています。「17人中13名が小・中学校の先生」という少し変わった環境で、先生になるための少々実践的な勉強をしており、毎日新しい発見に出会い、刺激的な日々を過ごしています。



この一年で、多くの先生方や教授に「拠る(居る)ところを楽しめ」という言葉をもらいました。どんな環境におかれても、自分の考え方、行動一つで自分にとってより良い環境へと変えていくことができるということです。環境の変化は、得られるものや成長の大きさも変えるでしょう。その場その場を一生懸命に楽しんでいける人はきらきら輝いています。そんな人生って素敵ですよね。

陸上部での活動を振り返ると、その気持ちって本当に大切だったな、と思いました。考え方、行動次第で成長の大きさが変わる、それが茨城大学陸上競技部だと思います。「拠るところを楽しむ」ことができていますか？今の環境は自分の夢実現のための環境になっていますか？

私も皆さんに負けず成長し続けられるように、群馬の地で何事にも挑戦していきたいと思います。「一人一人がきらきら輝く」茨城大学陸上競技部の姿を楽しみに、心から応援しています。

教育学部/保健体育/中長距離

800m・2分24秒51/1500m・4分54秒61/3000m・10分32秒21/5000m・18分46秒

## 酒井くるみ

みなさんお久しぶりです。引退した時のことや部活の練習に行っていた頃が今でも鮮明に思い出せるのですが、ついにOGとして部誌を書く番が回ってきてしまいました。

いま、私は茨城大学院理科専修の1年生が終わろうとしているところです。研究テーマにワクワクする反面、四苦八苦・悪戦苦闘しています。

中学生の時から常に私の生活とともにあった陸上をやめて、もう1年以上経ちました。毎日の練習に夢中になった感覚を今でもしっかり覚えています。当時は、自分の生活から陸上がなくなってしまうらどうになってしまうのか、まったく想像できませんでした。しかし、現在は陸上がなくても、なんとか生活しています(笑)どうしてなのかと考えてみると、今やっている研究や将来の夢に夢中になっているからなのだろうと思います。陸上部での活動に感じていたような体の中が熱くなる感覚は、いま自分の研究に感じている気持ちに似ています。大学院に進学させてくれた両親に感謝なくちゃいけませんね…。

みなさんご存じのとおり、陸上を続けていると、楽しい反面びっくりするくらいつらいことがあります。私は、つらさが勝って陸上嫌いになりかけました。しかし、つらいのも嫌いになるのも、きっと実は陸上に夢中になっている証拠です。そんなに夢中になれることがあるって、すごいことだと思いませんか。「夢中になること」を教えてくれた陸上部での時間は、私にとって貴重なものでした。

よくグラウンドで活動しているみなさんを見ながら、私も頑張らなくちゃと勝手に励ましてもらっています。私のことを知らない後輩方も多いとは思いますが、私は一人のOGとして心から陸上部のみなさんを応援しています。そして、みなさんの活躍から元気をもらっています。茨大陸上部の2016年が最高の1年になりますように。みなさんのさらなるご活躍を期待しています。」

教育学部/環境/短距離

100mH・15秒27/400mH・62秒60



## 萩野谷安己帆

みなさんお元気ですか。今年度は、練習にお邪魔したり、大会の応援に行かせていただいたりと、みなさんの活躍する姿をたくさん拝見させていただきました。その姿に、懐かしさを感じながら、新しくなる茨城大学陸上競技部の姿を嬉しく思っています。

私は現在、市町村職員として、充実した日々を送っています。私が担当しているのは、国民健康保険や年金に関する業務で、幼児から高齢者まで、幅広い年齢層の方に関わるものです。失敗も多く、窓口でお客様にお叱りを受けることや、上司に迷惑をかけてしまうこともあります。上司や同期、家族等たくさんの人に支えられ、職務に従事しています。

そんな私ですが、今与えられている環境は、人生の階段を1段上ったところと言えるでしょう。この階段を上るまでには、怪我のないよう、準備運動を行い、本当に自分が上るべき階段なのか、悩んできた時期がありました。その時期を、茨城大学陸上競技部の一員として過ごしてきたことは、間違いなく正しい選択だったと感じています。この1年を振り返っただけでも、些細なことから、大きな出来事まで、どんなことも、無駄になったことはありません。全ての経験や知識は、みなさんが進むべき道で、必ず生きていくものです。だからこそ、今の時間を、大学生という時期を大切に過ごしてください。

今後も、みなさん1人1人が、それぞれの目標に向かって輝けるよう、陰ながら応援しています。

人文学部/社会科学/マネージャー



## 星耕平

皆さん、お久しぶりです。私は現在、岡山県の家具メーカーで働いています。縁もゆかりもない岡山で孤独感に苛まれながらも、なんとか生きています。仕事ではマーケティングやブランディングを担う部署で、主にマーケティングリサーチのようなことを担当しております。言葉にしてみるとなんだか華やか(意識高そう)に見えますが、実際はPCに向かい地道な作業を繰り返す泥臭い仕事だったりします。社内でも新しい部署で、勉強の毎日ですが、学生時代から興味があったことに携わることができ充実した毎日を過ごしております。

早いもので卒業して1年が過ぎようとしております。社会人になった今、「大学にはなにもない。あるのは自由意志だけだ。」という高校時代の恩師の言葉の意味を身にしみて感じます。人生の夏休みとも揶揄される大学生活ですが、その自由な時間の多さこそが大学生の特権だと思います。“時間は作るものだ”というのはもともとですが、やはり大学生の自由さは社会人とは比べ物にならないと思います。月並みなことしかいえませんが、みなさんには大学生の特権を思う存分活かし、様々なことにチャレンジしてほしいと思います。それが部活動でも、部活動以外でも、そこで試行錯誤した経験は必ず自分のためになってくれるはずです。自分の好奇心の赴くまま、心ゆくまで大学生活を楽しんでください。

最後に、来シーズンも皆さんの活躍を楽しみにしております。怪我に気をつけて、頑張ってください。

人文学部/社会科学/短距離

110H・14秒88(+1.8)/400H・54秒11/100m・11秒51(-1.4)



## 谷貝修平

私は現在、陸上自衛隊北部方面隊第5旅団第27普通科連隊第3普通科中隊に所属しております。まず、後輩のみんなに言いたいことは茨城大学陸上競技部で自分で考えて行動して目標に向かっていくことを継続すれば、社会に出ても通用する。この一言に尽きます。陸上部では当面自分のことをのみ専念すればよいのではなく、部の運営、後輩の指導と幅広い視野が求められると思います。なかなか結果が出ずに悔しい思いをすることが多々あると思いますが、仲間を信じ、自分を信じて頑張ってください。結果は必ずついてきます。

人文学部/社会科学科/短距離

100m・11 秒 20 (+1.5)/200m・22 秒 45(+2.8)/400m・51 秒 49





Ⅶ. 記録集

茨大記録 【男子】

種目	氏名	記録	期日	大会名	会場
100m	杉崎 弘周	10.51(+1.9)	1998/9/11	日本インカレ	国立競技場
200m	伊藤 太一	21.14(0.0)	2011/9/11	日本インカレ	KKWING
400m	今村 明彦	48.06	1994/9/9	日本インカレ	国立競技場
800m	今井 英明	1.53.9	1990/4/7	学連競技会	筑波
1500m	秋山 陽祐	3.56.42	2007/9/15	関東新人	国立競技場
3000m	小野 隼太	8.47.04	2015/7/25	水戸ナイター	小吹
5000m	小野 隼太	14.48.63	2015/11/29	平国大記録会	鴻巣
10000m	秋山 陽祐	30.35.03	2007/12/22	松戸記録会	松戸
110mH	星 耕平	14.88(+1.8)	2014/10/25	国公立 24 大	宇都宮
400mH	神尾 伸也	52.53	1994/8/23	関東選手権	笠松
3000mSC	岡崎 浩樹	9.07.37	2008/8/24	関東選手権	笠松
5000mW	小向 瑞樹	24.40.48	2009/8/24	国公立 22 大	千葉県総合
10000mW	小向 瑞樹	49.38.28	2010/5/16	関東インカレ	国立競技場
4×100mR	伊藤(林)・伊藤(太)・柰家・沖崎	40.49	2015/8/8	順大記録会	順天堂大学
4×200mR	浅井・佐藤・大久保・神尾	1.27.38	1995/5/28	リレー選手権	笠松
4×400mR	開・上杉・山本・和田	3.14.60	2008/5/25	関東インカレ	国立競技場
4×800mR	中村・飯塚・林・神尾	7.54.72	1994/5/29	リレー選手権	笠松
4×1500mR	滝沢・根本・千葉・金沢	16.38.08	1981/4/18	リレー選手権	笠松
スウェーデン R	浅井・成石・大久保・岡	1.57.44	1996/5/26	リレー選手権	笠松
走高跳	青木 博光	2m00	1985/9/8	関東選手権	小瀬
棒高跳	岡山 進也	4m90	2001/5/26	リレー選手権	笠松
走幅跳	佐藤 良雄	7m09	1958/7/19	茨城県選手権	土浦
三段跳	吉野 学	14m81(+1.6)	2005/5/13	関東インカレ	国立競技場
砲丸投	海老原大輔	15m02	2005/8/20	関東選手権	敷島
円盤投	ホアン・テ・ウエン	40m84	2010/8/7	千葉対校	笠松
ハンマー投	小林 朋寛	47m61	2013/8/3	千葉対校	笠松
やり投	渡邊 将司	66m94	2000/10/19	国公立 21 大	小瀬
十種競技	渡邊 将司	6676 点	1999/7/17・18	栃木県選手権	宇都宮
5km	富井 一仁	16.18	2011/2/20	結城シルクカップ	結城
10km	千葉 雅昭	31.20	1981/2/11	勝田マラソン	ひたちなか
20km	渡辺 雄馬	1:03.29	2006/10/21	箱根駅伝予選会	昭和記念公園
30km	鈴木徳次郎	1:41.12	1973/2/17	青梅マラソン	青梅
ハーフマラソン	秋山 陽祐	1:09.27	2008/3/9	日本学生ハーフ	昭和記念公園
マラソン	秋山 陽祐	2:24.46	2008/1/27	勝田マラソン	ひたちなか

茨大記録 【女子】

種目	氏名	記録(風速)	期日	大会名	会場
100m	鈴木 麻理	12.10(+0.8)	2010/10/24	北関東五大学	宇都宮
200m	鈴木 麻理	24.52(+0.1)	2010/10/24	北関東五大学	宇都宮
400m	肥田埜里枝	56.04	2013/8/10	N.S.S.U オープン	日体大
800m	石澤ゆかり	2.10.95	2010/9/26	国公立 22 大学	三ツ沢
1500m	野田 春香	4.33.51	2007/9/28	国公立 22 大学	緑が丘
3000m	石澤ゆかり	9.41.49	2010/11/20	日体大競技会	日体大
5000m	野田 春香	16.28.82	2008/7/13	ホクレンディスタンス	北海道
10000m	黒澤 夏楠	33.35.75	2013/11/23	10000m 記録挑戦競技会	国立競技場
100mH	石川ちひろ	14.07(+1.5)	2006/6/10	日本インカレ	日産スタジアム
400mH	石川ちひろ	61.34	2005/9/18	国公立 22 大学	国立競技場
3000mSc	高野 美幸	11.24.53	2015/7/4	茨城県選手権	笠松
4×100mR	酒井・山口・鈴木(麻)・肥田埜	47.67	2012/7/5	茨城県選手権	小吹
4×200mR	黒川・大内・長谷川・呉	1.48.72	1994/5/29	リレー選手権	笠松
4×400mR	林田・鈴木(麻)・肥田埜・小嶋	3.49.50	2012/9/9	日本インカレ	国立競技場
4×800mR	深谷・飯嶋・小林・柴	9.42.31	1994/5/29	リレー選手権	笠松
スウェーデン R	黒川・呉・長谷川・柴	2.22.05	1994/5/29	リレー選手権	笠松
走高跳	森 あゆ美	1m73	2008/8/26	関東甲信越	熊谷
棒高跳	山内 裕香	3m52	2012/7/6	茨城県選手権	小吹
走幅跳	山口 真未	5m81(-1.3)	2013/8/10	N.S.S.U オープン	日体大
三段跳	遠藤 園子	12m80(+0.7)	2013/10/14	国公立 23 大学	町田
砲丸投	城所 舞	12m33	2011/8/16	千葉対校	千葉
円盤投	梅原 由香	45m84	1997/8/23	国体予選	笠松
ハンマー投	弓削真理子	51m33	2010/5/3	日体大競技会	日体大
やり投	古田 映布	45m31	2015/8/9	千葉対校	笠松
七種競技	山口 真未	4934 点	2013/9/6・7	日本インカレ	国立競技場
10km	野田 春香	34.16	2008/1/27	勝田マラソン	ひたちなか
ハーフマラソン	黒澤 夏楠	1:14.06	2013/3/17	まつえレディース	島根
フルマラソン	野田 春香	2:42.19	2009/1/25	勝田マラソン	ひたちなか

## 2015 年度ランキング

### 【男子】

種目	順位	氏名	記録
100m	1	伊藤 太一	10.63(+1.6)
	2	伊藤林太郎	10.87(+0.9)
	3	猿田 康陽	10.89(+1.3)
200m	1	伊藤 太一	21.47(+1.9)
	2	伊藤林太郎	21.83(+1.9)
	3	杵家 弘樹	22.11(+1.9)
400m	1	宮本 秀斗	48.48
	2	川原 直之	49.84
	3	伊藤 俊亮	51.08
800m	1	小澤晃太郎	1:57.13
	2	奥山 康太	1:59.60
	3	平塚 悠太	2:00.27
1500m	1	菊池 直人	4:05.22
	2	平塚 悠太	4:05.27
	3	小野 隼太	4:08.62
5000m	1	小野 隼太	14:48.63
	2	半澤 裕太	15:25.08
	3	藤井 駿丞	15:40.07
10000m	1	小野 隼太	31:31.00
	2	樋口 卓哉	34:25.72
	3	藤井 駿丞	34:28.56
110mH	1	村山 靖真	15.21(+1.3)
	2	立林 和歩	16.15(+1.5)
	3	木村 大介	16.68(+1.6)
400mH	1	川原 直之	52.89
	2	斎藤 海斗	57.51
	3	濱田 一輝	57.51
3000mSC	1	小野 隼太	9:11.75
	2	樋口 卓哉	9:54.56
	3	山本 智晴	9:54.88
4×100mR	1	伊藤(林)・伊藤(太)・杵家・沖崎	40.49
	2	沖崎・伊藤(太)・杵家・猿田	40.81
	3	伊藤(林)・伊藤(太)・猿田・沖崎	41.01
4×400mR	1	杵家・川原・斎藤・宮本	3:17.40
	2	宮本・川原・斎藤・伊藤(俊)	3:17.74
	3	宮本・伊藤(林)・中浦・猿田	3:19.42
走高跳	1	澁谷 惇徳	1m85
	2	沖崎 一也	1m80
	3	木村 大介	1m65
棒高跳	1	堀尾 佳希	4m50
	2	木内 智也	4m50
	3	沖崎 一也	4m30
走幅跳	1	沖崎 一也	7m03(-0.9)
	2	堀尾 佳希	6m45(+0.8)
	3	木内 祥太	6m38(+0.8)
三段跳	1	沖崎 一也	14m64(+0.6)
	2	木内 祥太	13m51(-0.4)
	3	堀尾 佳希	13m19(+0.7)
砲丸投	1	中浦 凌馬	10m56
	2	川嶋 康祐	10m53
	3	栗原 寿幸	10m09
円盤投	1	栗原 寿幸	35m19
	2	中浦 凌馬	31m72
	3	近藤 顕二	31m24
ハンマー投	1	富岡 泰資	40m23
	2	近藤 顕二	23m27
	3	栗原 寿幸	19m86

やり投	1	川嶋 康祐	58m38
	2	中浦 凌馬	58m23
	3	荒井 啓輔	56m97
十種競技	1	堀尾 佳希	5456点
	2	木村 大介	4839点
フルマラソン	1	藤井 駿丞	2:54.13
	2	山本 智晴	3:05.54
	3	伊藤林太郎	4:24.50

## 【女子】

種目	順位	氏名	記録
100m	1	加藤 佑実	12.32(+1.9)
	2	後藤 晴菜	13.46(+1.7)
	3	鈴木 杏奈	13.49(-2.8)
200m	1	加藤 佑実	25.57(-1.0)
	2	鈴木 杏奈	26.51(+1.2)
	3	大塚 美穂	26.98(+1.4)
400m	1	鈴木 杏奈	59.59
	2	塚田友萌美	60.86
	3	小林 莉菜	61.88
800m	1	堅野 里桜	2.27.39
	2	高野 美幸	2.27.64
	3	廣瀬 未来	2.28.68
1500m	1	金子 美鈴	4.46.98
	2	高野 美幸	4.47.74
	3	廣瀬 未来	4.55.21
3000m	1	金子 美鈴	10.16.62
	2	増田 梨沙	10.42.42
5000m	1	金子 美鈴	17.10.01
	2	高野 美幸	17.30.71
	3	廣瀬 未来	18.25.95
100mH	1	蛭名 史織	15.18(+0.4)
	2	大塚 美穂	15.54(+1.5)
	3	高橋 美緒	15.86(+0.6)
400mH	1	蛭名 史織	65.36
	2	佐久間 彩	65.62
3000mSC	1	高野 美幸	11.24.53
4×100mR	1	後藤・加藤・大塚・蛭名	49.01
	2	鈴木・加藤・後藤・大塚	49.17
	3	高橋・加藤・大塚・蛭名	49.60
4×400mR	1	鈴木・塚田・小林・蛭名	4.00.81
	2	小林・塚田・後藤・蛭名	4.01.64
	3	後藤・蛭名・加藤・小林	4.04.44
走高跳	1	永瀬麻梨凜	1m55
	2	大塚 美穂	1m51
	3	宮本 蘭子	1m45
棒高跳	1	山内 裕香	3m50
走幅跳	1	後藤 晴菜	5m47(+1.5)
	2	大塚 美穂	5m05(-0.1)
	3	山内 裕香	4m61(+0.1)
三段跳	1	永瀬麻梨凜	10m73(+0.4)
	2	後藤 晴菜	10m59(0.0)
	3	宮本 蘭子	10m49(+0.9)
砲丸投	1	神山 結衣	11m44
	2	大塚 美穂	10m09
	3	友常 結衣	8m80
円盤投	1	神山 結衣	41m10
	2	安田 萌	34m18
	3	古田 映布	32m05
ハンマー投	1	神山 結衣	29m75
	2	友常 結衣	21m09
やり投	1	古田 映布	45m31
	2	安田 萌	42m11
	3	大塚 美穂	39m93
七種競技	1	大塚 美穂	4427点
フルマラソン	1	杉浦ちはる	5:37.11
	2	永瀬麻梨凜	5:51.14

対校戦順位

	男子			女子		
順位	総合	トラック	フィールド	総合	トラック	フィールド
第 64 回関東甲信越大学体育大会(男子総合 5 位・女子総合 4 位)						
1	筑波大	筑波大	筑波大	筑波大	都留文大	筑波大
2	横浜国立大	横浜国立大	茨城大	横浜国立大	筑波大	茨城大
3	埼玉大	千葉大	埼玉大	都留文大	横浜国立大	横浜国立大
第 66 回北関東五大学対校陸上競技大会(男子総合 1 位・女子総合 1 位)						
1	茨城大	茨城大	茨城大	茨城大	茨城大	茨城大
2	埼玉大	群馬大	埼玉大	埼玉大	埼玉大	高崎経済大
3	群馬大	埼玉大	群馬大	高崎経済大	高崎経済大	群馬大
第 30 回国公立 25 大学対校陸上競技大会(男子総合 7 位・女子総合 3 位)						
1	東京学芸大	東京学芸大	東京学芸大	東京学芸大	福島大	東京学芸大
2	横浜国立大	横浜国立大	埼玉大	福島大	東京学芸大	茨城大
3	埼玉大	静岡大	横浜国立大	茨城大	都留文大	福島大
第 70 回三浜駅伝競走大会(一般男子の部【1 部】1 位・一般女子の部 1 位)						
1	茨城大 A			茨城大		
2	那須塩原			Lucky-Ne		
3	我流AC-A			水戸石川		
第 16 回荒川河川敷対校駅伝競走大会(男子総合 8 位・女子総合 1 位)						
1	東京工業大			茨城大		
2	横浜国立大			上智大		
3	埼玉大			北里大		
第 13 回国公立 25 大学対校駅伝競走大会(男子総合 13 位・女子総合 3 位)						
1	東京工業大			東京学芸大		
2	信州大			福島大		
3	横浜国立大			茨城大		

## Ⅷ. 部員名簿

学年	氏名	出身校/出身地	ブロック	学部/学科	学年	氏名	出身校/出身地	ブロック	学部/学科
院2	伊藤 太一	桜ノ牧/茨城	短距離	教育/保健体育	2年	小野 隼太	盛岡第一/岩手	中長距離	理/物理
院2	川部 優太	桜ノ牧/茨城	短距離	工/都市シス	2年	後藤 晴菜	竜ヶ崎一/茨城	跳躍	教育/保健体育
院2	柴 俊博	下妻一/茨城	投擲	教育/理科	2年	小林柊次郎	鹿沼/栃木	短距離	教育/スポーツ
院1	塚田友萌美	日立一/茨城	短距離	教育/保健体育	2年	富岡 泰資	竹園/茨城	投擲	教育/スポーツ
院1	本図 理彦	新発田/新潟	短距離	工/電気電子	2年	中浦 凌馬	水城/茨城	短距離	工/情報工
院1	安田 萌	竜ヶ崎一/茨城	投擲	教育/保健体育	2年	廣瀬 未来	牛久/茨城	中長距離	教育/健康
院1	渡辺 綾乃	日立北/茨城	短距離	教育/保健体育	2年	樋口 卓哉	甲府西/山梨	中長距離	工/メディア通信
4年	荒井 啓輔	竜ヶ崎一/茨城	投擲	教育/保健体育	2年	古田 映布	下妻一/茨城	投擲	教育/保健体育
4年	伊藤林大郎	山形東/山形	短距離	教育/保健体育	2年	増田 梨沙	仙台二華/宮城	中長距離	人文/社会
4年	沖崎 一也	埼玉栄/埼玉	跳躍	工/都市シス	1年	伊藤 俊亮	西宮北/兵庫	短距離	工/マテ工
4年	奥山 康太	山形南/山形	中長距離	理/地球環境	1年	海野 優佳	緑岡/茨城	マネージャー	教育/養護教諭
4年	加藤 佑実	茨城キリスト/茨城	短距離	教育/健康	1年	大貫 将人	竜ヶ崎一/茨城	跳躍	教育/スポーツ
4年	猿田 康陽	太田一/茨城	短距離	工/マテ工	1年	金子 美鈴	栃木女子/栃木	中長距離	教育/スポーツ
4年	杉浦ちはる	豊島学院/東京	短距離	教育/健康	1年	神山 結衣	那須拓陽/栃木	投擲	教育/保健体育
4年	永瀬麻梨凜	並木/茨城	中長距離	教育/健康	1年	川嶋 康祐	日大三島/静岡	投擲	教育/健康
4年	平沼 清一	鉾田一/茨城	短距離	教育/技術	1年	川原 直之	杉戸/埼玉	短距離	教育/スポーツ
4年	福田 智仁	太田一/茨城	短距離	人文/人コミ	1年	木内 祥太	佐原/千葉	跳躍	工/機械工
4年	村山 靖真	竜ヶ崎一/茨城	短距離	人文/社会	1年	木内 智也	佐原/千葉	跳躍	工/機械工
4年	山内 裕香	聖徳/茨城	跳躍	教育/スポーツ	1年	木村 優	緑岡/茨城	短距離	教育/理科
3年	荒井 芽衣	白河/福島	中長距離	教育/養護教諭	1年	栗原 寿幸	安房/千葉	投擲	理/学際理学
3年	小澤晃太郎	日立一/茨城	中長距離	教育/保健体育	1年	小林 莉菜	水戸葵陵/茨城	短距離	教育/健康
3年	菊池 直人	水戸三/茨城	中長距離	教育/保健体育	1年	齊藤 海斗	土浦第三/茨城	短距離	人文/社会
3年	木村 大介	小瀬/茨城	跳躍	工/機械	1年	佐久間 彩	橘/福島	短距離	教育/スポーツ
3年	渋谷 弥生	青森/青森	中長距離	人文/人コミ	1年	澁谷 惇徳	新発田/新潟	跳躍	人文/人コミ
3年	鈴木 杏奈	矢板東/栃木	短距離	教育/保健体育	1年	高橋 美緒	館林女子/群馬	短距離	教育/健康
3年	高野 美幸	磐城/福島	中長距離	教育/健康	1年	立林 和歩	掛川西/静岡	短距離	教育/スポーツ
3年	友常 結衣	土浦湖北/茨城	投擲	教育/健康	1年	濱田 一輝	帯広柏葉/ 北海道	短距離	農/資源生物
3年	長谷川大輔	三条/新潟	中長距離	理/地球環境	1年	半澤 裕太	熊谷/埼玉	中長距離	工/知能シス
3年	平塚 悠太	佐和/茨城	中長距離	工/都市シス	1年	宮本 莉歩	下妻一/茨城	マネージャー	教育/理科
3年	藤井 駿丞	熊谷/埼玉	中長距離	人文/人コミ	1年	本吉 広武	木更津/千葉	短距離	教育/国語
3年	堀尾 佳希	須坂/長野	跳躍	工/都市シス					
3年	宮本 秀斗	竜ヶ崎一/茨城	短距離	教育/保健体育					
3年	宮本 蘭子	緑岡/茨城	跳躍	教育/保健体育					
3年	安井 智哉	明星/東京	短距離	理/物理					
3年	柳町 直	竜ヶ崎一/茨城	中長距離	教育/保健体育					
3年	山本 智晴	宇和/愛媛	中長距離	理/数学					
2年	石堀 芙柚	水戸一/茨城	マネージャー	教育/心理					
2年	蛭名 史織	常総学院/茨城	短距離	教育/健康					
2年	大塚 美穂	宇都宮南/栃木	跳躍	教育/保健体育					

#### 編集後記

今回も部誌を作成するにあたり、ご協力していただいた皆様に感謝申し上げます。おかげさまで無事に部誌を発行することができました。2015年度を振り返りますと、日本学生陸上対校選手権大会において女子棒高跳びに山内、男子が4×100mリレーに出場しました。千葉対校戦や北関東5大学対校戦では男女ともに総合優勝を果たしました。また、そのほかの大会でも多くの自己ベスト更新が見られました。2016年度は新しい方針として「闘波」と設定し、チームや個人の目標に向かってお互いに刺激し合いながら日々の練習に取り組み、様々な大会で活躍していきます。(文責:増田梨沙)

#### 茨城大学陸上競技部に関するお問い合わせ

陸上競技部に関するご意見・ご質問は、ホームページ内の掲示板、もしくは、顧問の上地までよろしく願いいたします。皆様からの情報をお待ちしております。

#### ホームページURL

<http://18.pro.tok2.com/~ibadaitandfclub/>

#### 顧問 上地 勝 渡邊 将司

〒310-8512 水戸市文京2-1-1

茨城大学教育学部

Tel: 029-228-8477(研究室)

Fax: 029-228-8478(体育事務室)

e-mail: [mueji.ueji.he@vc.ibaraki.ac.jp](mailto:mueji.ueji.he@vc.ibaraki.ac.jp)

#### 茨苑ACに関するお問い合わせ

〒316-0023 日立市東大沼町2-10-21

Tel: 029-435-5062

益子 雄行

茨城大学陸上競技部部誌「Perspiration」第10号

平成28年 3月26日発行

編集責任者

廣瀬未来・増田梨沙

発行者 茨城大学陸上競技部